

阪神淡路大震災における新聞報道の 時間的推移と地域比較

02302110 山梨大学 * 床井則友 TOKOI NORITOMO
(株)千代田コンサルタント 浅田賢一 ASADA KENICHI
01108400 山梨大学 片谷教孝 KATATANI NORITAKA

1 はじめに

地震をはじめ、あらゆる種類の災害は、マス・メディアを通じて大きく報道され、その伝えられた情報は、人々や組織に多大な影響を与えられられる。にもかかわらず、これまでに災害報道を扱った研究は数少ない。

本研究では、阪神淡路大震災における時間的変化による災害報道の推移と地域による報道特性の違いを、ORの対象である社会モデルの一つとしてとらえ、分析することを目的とする。

2 分析方法

2.1 使用データ

本研究では、地方紙と全国紙との報道特性の違いを計測するために『山梨日日新聞』（以下、山日）と『朝日新聞（東京版）』（以下、朝日）の2紙について計測した。

2.2 記事の計測方法

地震関連の記事を計測する際に、本研究では、『横見出し』、『写真、図表』は、視覚的な効果があると考えられるため、普通の『縦タイトル記事』とは別にし、『横見出し（面積[cm²]、文字数）』、『縦タイトル記事（面積[cm²]、記事長[cm]）』、『写真、図表（面積[cm²]）』の3つに分類した。

2.3 記事内容の分類

記事内容の分類は、表1の24項目に該当する内容に分類した。

表1 記事内容の分類

地震関連	実行	人的
緊急対応	報告	物的
一次被害	反省・見直	経済的
二次被害	指摘	ライフライン
政策・防災計画	意見	衣食住
支援・救援	批判	
復旧・復興	検討	
義援金	調査	
ボランティア	自粛	その他

3 結果と考察

3.1 各記事長の総量

新聞で取り扱う記事長の総量をそれぞれ図1に示す。これを見ると、山日では、義援金に関連する記事が多いことが目立つ。これは、地方紙特有の個人情報重視の性質により寄付者の個人名まで記載したところによる大きい。それに対して朝日では、一次災害と対策・防災計画に関する記事が多い。

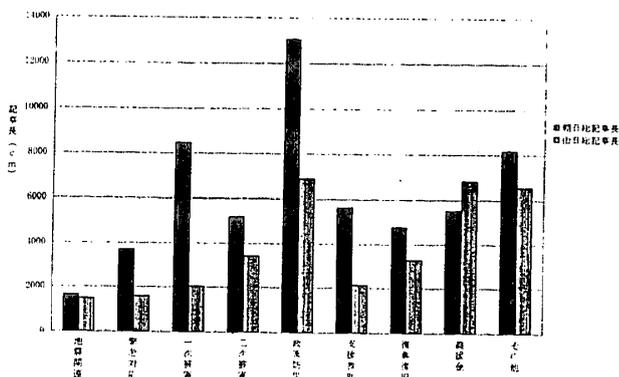


図1 総記事長

3.2 各項目別の日変化

主要な項目について、各新聞で取り扱う記事の日変化をそれぞれ図2、3に示す。地震直後は被害状況を伝える報道に重点が置かれ、徐々に復興・復旧に関する記事の割合が増えてきている。ただし記事長と比較すると日変化の幅が大きく、日によって報道の重点が細かく変化していることを表わしている。

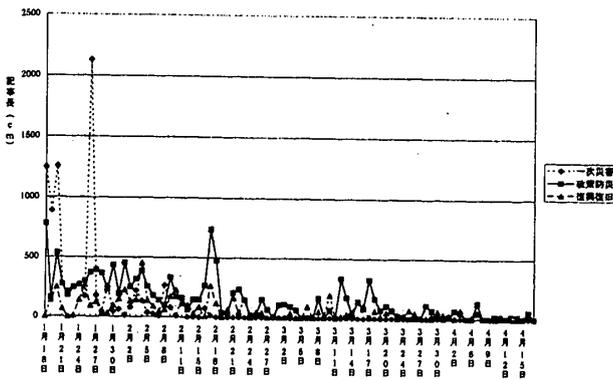


図2 朝日主項目の日変化

3.3 記事長のページ数に対する割合

記事長のページ数に対する割合の日変化を図4に示す。図1に示すように、総記事長では朝日の方が山日よりも多いが、割合で見れば両者にさほど差がないことがわかる。また両紙とも全体的には指数減衰的に推移しているが、日によってはかなり大きな凹凸も見られる。

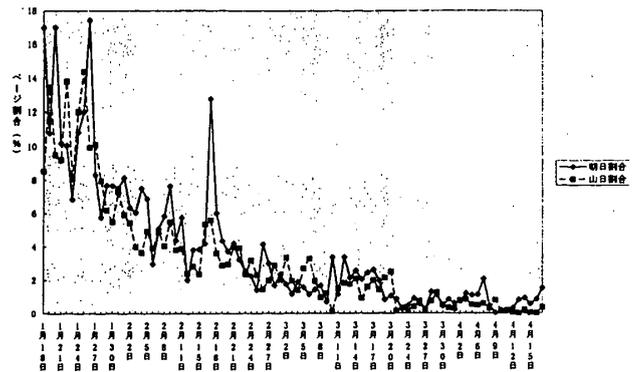


図4 ページ割合による比較

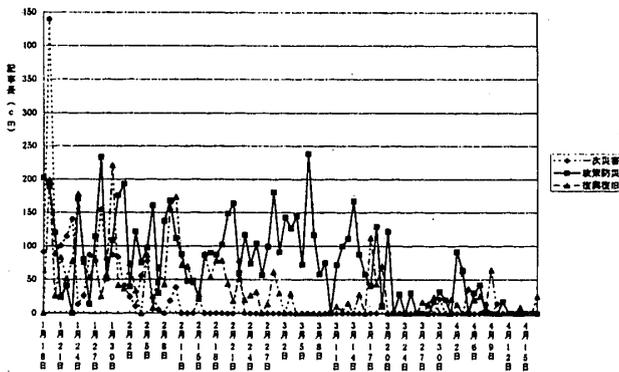


図3 山日主項目の日変化

3.4 まとめ

地方紙と全国紙との震後3ヶ月の取り扱う新聞記事の長さとその内容の検討を行うことにより、地域による報道特性の違いを検討した。その結果、時間の経過に伴って記事長は減少するものの、多くの要因によって複雑な増減を示すこと、全国紙よりも地方紙の方が記事長が少ないものの、全紙面に対する割合では差がないことなどが明らかとなった。

参考文献

- [1] 石鍋敏夫：「新聞記事に見られる地震災害報道特性の分析」, 筑波大学都市防災研究成果集 (第1集), pp167-172, 1993.